

2025.8.21



地域日本語支援ニュース こだま 第458号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.htm>

1 ■ともに生きる：神奈川県より■

日本人ムスリマ（注1）として、サウジアラビアと日本で子育てをされてきた富岡さん。現在は外国につながる生徒の多い神奈川県の高校で日本語授業を担当するほか、外国につながる中学生の学習支援ボランティア、「やさしい日本語」の普及活動、さらに学校や地域とのつながりを大切にしたいという思いから、PTA 会長はじめ自治会の役職も歴任なさっています。そのかたわら長年、日本に住むムスリム女性に寄り添い、相談にのってきました。ご自身のこれら貴重な体験をもとに、イスラームの子どもたちの支援者の皆さんにぜひ伝えたいことを、2回にわたりご執筆いただきました。

イスラームの子どもたちへの理解と支援(1)

鶴見総合高校・横浜総合高校 非常勤講師（日本語）

富岡 貴子

◆イスラームに改宗（かいしゅう）して

キリスト教徒からイスラム教徒（ムスリマ）になってもうすぐ30年が経とうとしています。元々高校教師だった私は結婚後、夫（日本人ムスリム）の仕事の関係でサウジアラビアに2回、合計8年住み、3人の子どもをサウジアラビアと日本の両方で育ててきました。日本人の改宗ムスリマや外国人ムスリマから日本での学校教育とイスラーム教育について、あるいは、日本でのイスラームの実践について、たびたび相談を受けることができました。

◆日本語教師になったきっかけ

サウジアラビアから帰国し、日本の学校に編入した時、我が子は中2、小6、小1でした。子どもたちは日本語での日常会話は問題がありませんでしたが、サウジアラビアではアメリカンスクールに通っていたので、教科書の漢字が読めず、学習言語としての日本語の習得に苦労しました。漢字にルビを振ってあげて発音はできても、意味がわからない始末。帰宅した子どもたちに教科内容を図や表で書き示したり、簡単な日本語にして伝えたりしていました。この時、「やさしい日本語」の必要性を痛感しました。

娘たちは帰国生が多く、第2外国語でアラビア語を選択できる公立高校に合格し、楽しく学校生活を送っていました。そんなある時、お子さんが中2で来日したパキスタン人親子から高校進学についての相談を受けました。あと1年で高校受験を迎える子どもに日本語を教えてほしいと頼まれましたが、日本語教育の経験のない私にはゼロビギナーのその子に高校受験に対応できる日本語力をつけるのは無理だと思い、その時は地域の国際交流協会の日本語教室を紹介するぐらいしかできませんでした。ほどなくして、同じ状況のバングラデシュ人親子からも相談を受けました。そんなことが重なり、日本語の習得を必要としている外国人の子どもたちにきちんと日本語を教えられようになりたいと思い、日本語教師養成講座に通い、日本語教師になりました。その後は、日本語学校で経験を積み、現在は2つの高校をメインに日本語を教え、地域の国際交流ラウンジで外国につながる中学生の学習支援ボランティアもしています。

◆イスラームの子どもたちへの支援

かながわ国際交流協会の「イスラームの子どもたちを理解するために」（注2）のパンフレット作成に関わりました。その中で、私が強調したかったことは、同じムスリムでもいろいろな考え方の人がいるということです。イスラームの教え（神髄（しんずい））は一つですが、イスラームの実践については、地域によっても違うし、信仰の度合いや置かれている状況により戒律（かいりつ）をどの程度守るかは一人ひとり違うので、一律（いちりつ）ではなく個々に話を聞いて対応してほしいということです。おそらく、それこそが学校等の現場を悩ませる一因でもあるかと思われますが、ムスリムに関わった経験の多い支援者の方にはうなずかれる方も多いでしょう。

想像してみてください。日本人の宗教は多くは神道や仏教だと思われませんが、いったいどれだけの人が、毎日神棚（かみだな）や仏壇（ぶつだん）に

手を合わせているのでしょうか。すべての仏教徒が般若心経（はんにゃしんぎょう）の内容を知り、唱えているのでしょうか。宗教は仏教だけど、行（ぎょう）の実践（じっせん）に関心のない方もたくさんいらっしゃるだろうと思います。それと同じように、世界に約19億いるムスリムは多様で、すべてのムスリムが日々の生活においてイスラームの戒律を実践しているというわけではありません。しかし、イスラームというのは内面の信仰だけを大事にするのではなく、生活そのものがイスラームの信仰の実践であるため、目に見える形で表れてくるので、わかりやすいのです。

戒律の実践において、様々な考え方のムスリムがいることをまずは理解したうえで、ここからはイスラームの実践を日々行って（おこなって）いるムスリムと関わる際に、支援者が知っておいたほうが良いことをいくつかあげます。

◆イスラームの生活習慣

1) 礼拝

一日5回（ファジュル：夜明け、ズフル：正午頃、アスル：遅い午後、マグリブ：日没、イシャー：夜）メッカの方向に向かって礼拝します。礼拝時刻は太陽の動き（日の出や日没の時間）との関係もあり、毎日1～2分ぐらわずれていきます。礼拝自体は5～10分程度で、どこでもできます。学校では空きスペースを使用して礼拝している人もいます。礼拝前に顔手足等体を清める（ウドゥー）必要があり、洗面所の床を水浸し（みずびたし）にしてしまうことがあるので、その時は、次に使う人のことを考えて、きれいに拭く（ふく）などの指導が必要です。生理中の女性は礼拝しません。

モスクでの金曜集団礼拝は成人男性の義務となっており、イスラーム圏では金曜日が休日の国も多いです。日本の学校でも金曜日のお昼ごろ、モスクに行きたいと希望するムスリム男子もいます。小中学校はそれほど問題になりませんが、高校では金曜日の5時間目の授業を毎回欠課（けっか）になると、それが必修科目であれば、卒業できないこともあるので、希望する場合は保護者の方にも説明して、相談する必要があります。

2) 断食

ラマダーン月（イスラームの暦（こよみ）ヒジュラ暦（れき）の第9月）に1か月間、ファジュル（夜明け）からマグリブ（日没）まで飲食をしません。ヒジュラ暦では1年は12か月、1か月は29～30日で、毎月29日目の夜に新月

(しんげつ) 観測し、新月が確認できたら新しい月の始まりとなります。新月が見えない場合はその月が1日延びることになるので、ラマダーンの始まりは前日の夜にならないと確定しません。天候等により新月が確認できる場所とできない場所があるので、国によってもラマダーンの始まりが1日ずれることも多々あります。西暦よりも11日間少ないため、毎年、11日ずつ前にずれていきます。今年では日本では3月2日から3月30日まででしたが、来年は2月20日頃からになります。

同じ時期に断食(だんじき)という試練を共有することでムスリムたちは一体感を感じ、信仰をより深める時期でもあります。空腹や渴き(かわき)を覚えることで、貧しい人々を思いやり喜捨(きしゃ)を行い、欲望や悪を遠ざけて自身を清め、善行(ぜんこう)にいそしむ神聖な月です。断食は健康な成人男女(何歳からというのではなく、第二次性徴(せいちょう)による)の義務ですが、旅行中の人、病人、高齢者、妊婦、授乳中、生理中の女性は免除されます。子どもは義務ではありませんが、小学校低学年から徐々に断食する子もいます。断食を始める時期は、本人や家庭の希望によってもまちまちです。

ラマダーン月が真夏の場合は大変ですが、冬の時期にあたれば断食時間も短くなり、ノンムスリムの日本人が思っているほど辛いものではありません。イスラーム圏の中にはラマダーンタイム(始業・終業時刻が早まる)がある国もあります。ラマダーン中は親戚、友人をイフタール(日没後の食事)に招待し、訪問し合って交流を楽しんだり、タラウィーフ(ラマダーン中の特別な礼拝)に参加したり、夜の外出が多い時期で、断食よりも睡眠不足の方が辛いかもしれません。

ラマダーン明けのイードの日は朝8時ごろからモスク等で集団礼拝があり、それに参加するために学校を休む児童生徒もいます。

3)食事

豚肉、お酒(酔わせるもの)の飲食は禁じられています。豚肉以外の肉も、ハラール肉(イスラーム法に則って(のっとして)屠畜(とちく)された肉)しか口にしないムスリムが多いです。啓典の民(けいてんのたみ=ユダヤ教徒やキリスト教徒)が屠った(ほふった)肉は食べることが許されているので、オージービーフ等を食べるムスリムもいます。一部の醤油(しょうゆ)や味噌(みそ)等に含まれるアルコール(保存目的の添加物)については見

解によって判断が分かります。動物由来の材料、アルコールが含まれる食品には注意が必要です。

4)服装

男女ともに隠す(かくす)べき部分があります。男性はおへそからひざまで、女性は顔と両手以外。家族以外の男性の前では髪をヒジャーブで覆う(おお)う) ことになっています。中東の湾岸地域に多いハンバリー派は顔も隠します。同性でも恥部(ちぶ)は見せないなので、一緒にお風呂に入りません。小便の際も個室を使う男子もいます。学校での体操着や水着は長袖、長ズボンを着用する生徒が多いです。

5)偶像崇拜(ぐうぞうすうはい)禁止

イスラームでは、唯一(ゆいいつ)絶対の創造主である「アッラー」(アラビア語で「神」という意味)を信じており、アッラー以外の神を崇(あが)めることは大罪(たいざい)になります。そのため、イスラーム以外の宗教施設(神社やお寺等)への訪問に抵抗を示すムスリムもいます。訪問はしても参拝しないムスリムがほとんどです。

また、日本の伝統行事、節分、ひな祭り、お神輿(みこし)等も元々の由来は宗教と関係するものが多く、七夕(たなばた)は星に願いをする(願い事をかなえるのは星ではなくアッラー)という点で抵抗を示すことがあります。クリスマスに関しては、キリスト教のイエスはイスラームにおいては「預言者(よげんしゃ)」の一人として非常に尊敬されていますが、イエスを「神の子」とは信じていないので、クリスマスソングにあるような救い主の誕生を喜ぶ三位一体(さんみいったい)説を思わせる歌詞には非常に抵抗を感じる方もいます。

美術では静物画やアラベスク模様などのデザインは描かれますが、人物や動物の彫刻や絵画は偶像崇拜禁止の観点から避けられています。

6)その他

イスラーム圏においては学校教育で音楽の授業や女子の体育がない国もあります。音楽についてはイスラームでは、許容する見解、忌避(きひ)すべきだという見解、禁止されたものとみなす見解があります。見解がいくつかある場合は、どの見解に従うかは個々のムスリムの判断によりますので、どれが正しくどれが間違っているということではありません。ムスリムの中に

は音楽の授業を希望しない生徒もいます。ただ、中学校で音楽の授業を受けないと成績の評価がつかず、高校受験の際に内申点（ないしんてん）で不利になるということは、希望する保護者に事前に説明する必要があると思います。

また、賭け事（かけごと）はイスラームで禁じられていて、くじ、ポケモンゲーム、トランプゲーム等を賭け事に当たると考えるムスリムもいます。

以上、この他にもいろいろありますが、主なものをいくつかあげました。

先に述べたように、イスラームの実践については多様性があり、個人差があります。一律化して対応するのではなく、配慮の希望があった場合は個別に対応していく必要があります。

次回は支援する際に理解しておいていただきたい考え方や姿勢についてお伝えしたいと思います。

注1 「ムスリマ」：女性のイスラム教徒を指す言葉。「ムスリム」は男性のイスラム教徒、および、イスラム教徒全般を表す総称。

注2 「イスラームの子どもたちを理解するために」

<https://www.kifjp.org/islamchildren>

「同」ダウンロード PDF 版

<https://www.kifjp.org/wp-new/wp-content/uploads/2022/12/Islam202212.pdf>
